

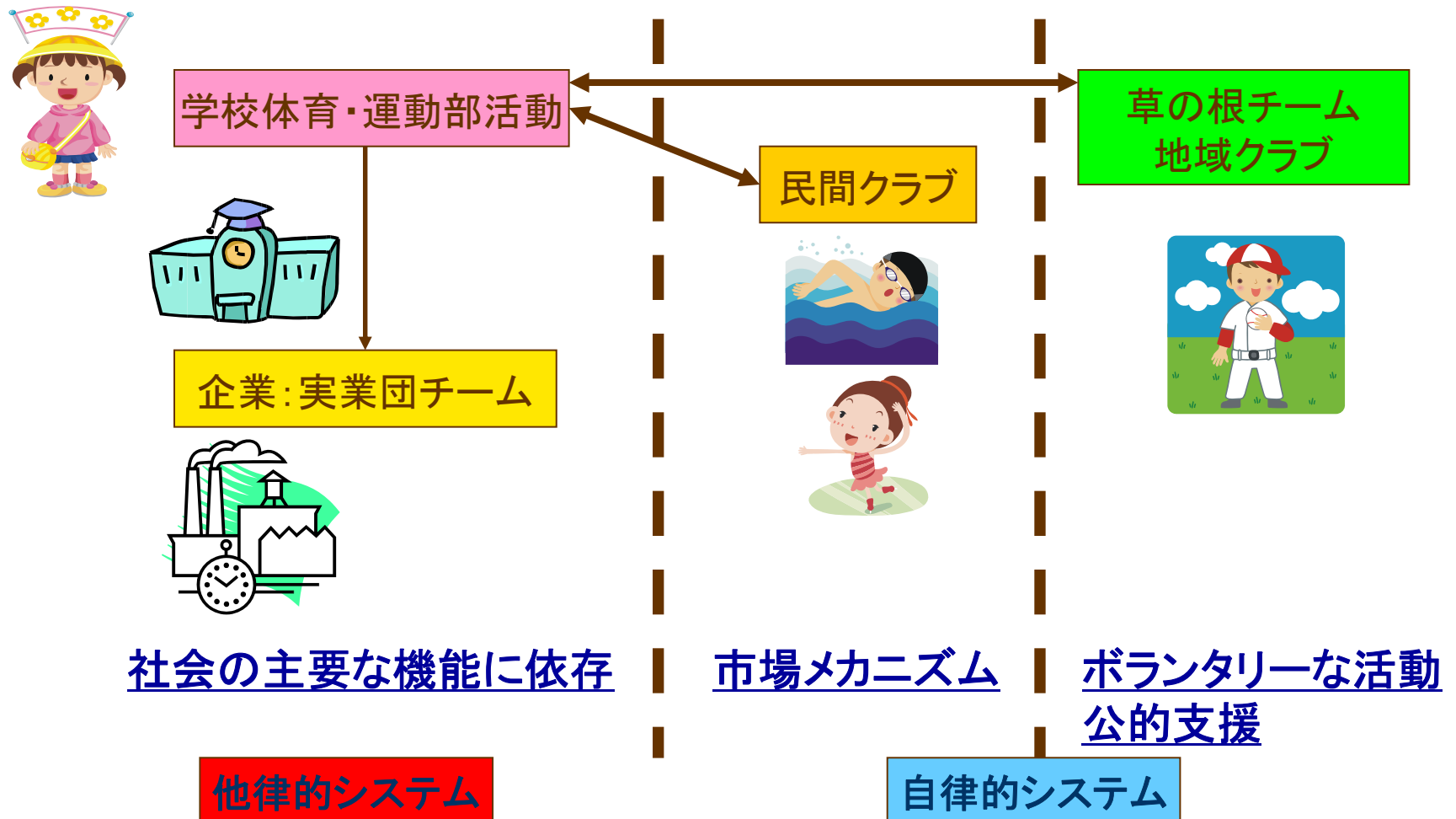
これからのスポーツ振興システム

筑波大学大学院人間総合科学研究科
スポーツ健康システム・マネジメント専攻
准教授 高橋義雄

本報告の基礎となる調査研究事業

- ・ トップレベル・スポーツクラブマネジメント研究会(2006)
- ・ トップレベル・スポーツクラブマネジメント研究会(2007)
- ・ 以上の2件は文部科学省委託事業:トップレベル・スポーツクラブ活動支援事業より研究会を結成
- ・ 文部科学省委託事業:総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業—愛知発:地域スポーツのクロスオーバーモデル(2008)
- ・ 文部科学省委託事業:トップアスリート活動整備基盤事業(2008)
- ・ 文部科学省委託事業:スポーツ環境の整備に関する調査研究事業(2009)

スポーツ振興システムの3タイプ



スポーツの高度化と公的施策

なぜ高度なレベルに挑戦しないといけないのか

1. スポーツはGAMEであり、競い合い。
《本気で競うことが相手やスポーツへのリスペクト》
2. スポーツへの憧れは一流のシーンから始まる

なぜ公的施策が必要なのか

1. スポーツが社会生活にさまざまな効用をもたらす
2. 市場のメカニズムを公平、公正の観点から調整することでスポーツへの平等なアクセスが確保される
3. 産業化を促すスポーツシステムの自律を支援

シナジー効果をめざして ～スポーツ振興システムの連携～

学校・企業のスポーツ＋民間クラブの連携

学校・企業のスポーツ＋草の根チーム・地域クラブの連携

民間クラブ＋草の根チーム・地域クラブの連携



学校・企業のスポーツ＋民間クラブ＋草の根チーム・地域クラブの連携

課題

1. スポーツクラブ経営のノウハウ不足
基本は会員収入（ストックビジネス）
規模の拡大により興行収入（フロービジネス）
2. 既存の構造の既得権
3. 従来のシステムで構築された既存の行政制度

解決策

1. クラブ経営のコンサルティング
totoの助成と成果主義の導入
2. 公的組織による利害調整
広域スポーツセンターの強化
学校体育施設の社会体育施設化
3. 制度設計
国政レベルのスポーツ行政の一元化
教育行政を超えた自治体のスポーツ行政
メディア政策・観光政策との連動
「コンクリートから人へ」そして「人が生きるコンクリート(スポーツ施設の高付加価値化)へ」
スポーツ産業育成政策
 会員ビジネスにおいて低価格競争を抑える施策(価格維持)
 興行ビジネスにおいて回数増加のための費用逓減施策